

背景

2002年9月、ヨハネスブルグサミット(WSSD)で定められた実施計画において、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への著しい悪影響を最小化することを目指すとの目標(WSSD 2020年目標)を設定。

2006年2月、第1回国際化学物質管理会議(ICCM)がドバイで開催され、目標達成のための方途としてSAICMを採択。

SAICMを構成する文書(参考)

国際的な化学物質管理に関するドバイ宣言

以下の事項を含む30項目からなる宣言。

- ・子供、胎児、脆弱な集団を保護。
- ・化学物質のライフサイクル全般にわたる情報及び知識を、公衆に利用可能とする。
- ・国の政策、計画、国際機関の作業プログラムの中に、SAICMを統合。

包括的方針戦略

- ・SAICMの対象範囲、必要性、目的、財政的事項、原則とアプローチ、実施と進捗の評価について定めた文書
- ・対象範囲は、分野としては化学物質の安全性の環境、経済、社会、健康及び労働面、物質としては農業用及び工業用化学物質(製品中の化学物質を含む。ただし、食品及び医薬品は含まない。)

世界行動計画(Global Plan of Action: GPA)

SAICMの目的を達成するために関係者がとりうる行動についてのガイダンス文書として、273の行動項目をリストアップ。

関連スケジュール

2006年(平成18年)2月
第1回国際化学物質管理会議

SAICMの採択

2007年(平成19年)2月
第1回アジア太平洋地域会合

2009年(平成21年)5月
第2回国際化学物質管理会議

SAICMの実施状況のレビュー 「新規の課題(次頁)」の採択

我が国が副議長(アジア太平洋地域代表)

2009年(平成21年)11月
第2回アジア太平洋地域会合

2011年(平成23年)9月
第3回アジア太平洋地域会合

2011年(平成23年)11月
公開作業部会(OEWG)

2012年(平成24年)9月
第3回国際化学物質管理会議

2015年(平成27年)
第4回国際化学物質管理会議

2020年(平成32年)
第5回国際化学物質管理会議

新規の課題

第2回国際化学物質管理会議において、以下の「新規の課題」を検討することに合意。

1. ナノテクノロジー及びナノ材料
2. 製品中化学物質
3. 電気電子製品のライフサイクルにおける有害物質
4. 塗料中鉛

各課題ごとに、ワークショップ等が実施されている。

ペルフルオロ化合物(PFOS、PFOA等含む)を含む製品に関する情報交換の推進。

ICCM3の概要

日程 2012年9月17日(月)～21日(金)

場所 ナイロビ(ケニア)

主な議題

- SAICMの評価の実施
- **新規の課題**
- 「ナノテクノロジー及びナノ材料」、「電気電子製品のライフサイクルにおける有害物質」に係る新規の行動項目のGPAへの追加
- SAICMの実施のための資金・技術リソース など

(参考) SAICM国内実施計画に関する諸外国の動向

アメリカ



SAICMに対応するため、北米環境協力委員会(CEC)でSAICM実施のための化学物質管理戦略を策定

カナダ、メキシコを含む。

カナダ



CECでの戦略に加え、2006年にカナダとして「化学物質管理計画」を策定。

英国



2004年に国内計画を策定。(2006年に修正)

オーストラリア



2007年に「化学物質環境管理のための国家的枠組み」を策定。

韓国



2011年1月に「化学物質管理基本計画」を策定。これをもとに2011年11月にSAICM国内実施計画を策定。